

たとえリセットされても

## 知っていますか？ 自分のこと

4年 A・Kさん

あなたはロボットが人間のすがたでかくれて住んでいる世界を想ぞうしたことがありますか？

主人公の愛は、四年生になるとともに転校してきました。実は愛はロボットでした。でも、愛は自分がロボットだということを知らずに人間だと思っています。そして、愛のお母さんは愛がロボットだと他人にばれてはいけないという使命をもっています。ですが、愛がかんべきすぎたため、愛をロボットだとうたがう子がでてきてしまい、最後には愛がロボットだとばれてしまいます。

私がこのお話を読んで一番心にのこったことは、愛のお母さんに愛とその友達が、本当に愛がロボットなのかどうかをききにきて、お母さんがその真実を明かす場面です。さらに愛に前の年のきおくがなかったのは、お母さんが毎年愛のきおくをリセットしていたからでした。私はこの真実を知る前、愛が友達にどんなにロボットだとうたがわれようと、愛はきつと人間でロボットではないと思っていたいました。けれども、真実が私の考えと正反対だったので、しよげきてきでとてもおどろきました。私は、二回目に読んだ時に初めて気がついたことがあります。それは、愛のセリフに一言も気持ちを表す言葉が書かれていないということです。この本の中で愛の友達がいないと言っていたので、愛のセリフをかくにんしながら読んでいってみたら、本当に愛のセリフには一言も気持ちを表す言葉がかかれていませんでした。私もこの本を読む前は愛の友達と同じ意見で、ロボットに気持ちはないと思っていました。でも、この本を読んだ、ロボットにも少しは気持ちがあるのではないかという考えに変わりました。理由は最後の方のページのさし絵で愛が泣いている場面があったからです。きつと愛は友達にたとえ愛がリセットされて自分達のことをわすれてしまったとしても、友達だからずっと覚えていられるよと言われうれしくて泣いてしまったのだと思います。

この本には書いていないけれど、愛はこの後もきつとリセットされてしまうのだと思います。でもそうなるにしても、友達との深いきずなどで、友達のことを覚えていてほしいです。

そして、題名にも「たとえリセットされても」最後まで愛のことを信じてつけてくれた友達をぜったいにわすれたくないという愛の強い気持ちがこめられているのだと思います。